

第46号

学校法人 渡辺学園
発行 総務部総務課
〒173-8002 東京都板橋区加賀
1-18-1 電話(3961)5226

東京家政大学大学院
東京家政大学短期大学部
附属女子高等学校・附属女子中学校
附属みどりヶ丘幼稚園

主な内容

- 平成19年度文部科学省による大学教育
改革支援プログラム 1面
学生記者企画第4弾
「それだけ家政~家政女たちが立ち上がる」... 2面
大学のここが知りたい②
地域連携協力推進センター 3面
ナースルーム開設40周年を迎えました... 3面
白藤復活プロジェクト 4面
受賞 4面

Tokyo Kasei Press

学園新聞

本学の教育活動等取組みが5件採択される!

平成19年度文部科学省による大学教育改革支援委託事業プログラム

文部科学省では各大学における大学改革の取組みが一層推進されるよう、国公私立大学を通じた競争的環境下で、特色ある優れた取組みを選定・財政支援を実施しています。

1 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

① いま保育士に求められる専門性の学び直しと現場復帰への保育士再チャレンジプログラム



休職中の有資格社会人とキャリアアップを望む現職者を対象に、東京家政大学と東京都立保育園研究会の連携のもと、保育士に求められている専門性(保護者との関係作り、統合保育、ソーシャルワーク、病児保育、感染症対策など)の習得と、技能の向上を図るための再教育を施し、再チャレンジの機会と新しい活動の場を創出していくプログラム。
期間・平成19年度、平成21年度

② 児童英語地域支援者養成コース・プロジェクト



地域で英語教育に関心を持つ社会人と現職教員を対象に、東京家政大学と近隣教育委員会の連携のもと、小学校・中学校英語教育の指導・支援に携わる人材を育成するため、英語力や英語教授力の向上を図るプログラム。
第一期は

- 「児童英語教育論」
「児童英語指導法」
「児童英語教材研究」
「CALL演習」
「Speech & Communication」

5科目を開設
期間・平成19年度、平成21年度

委託事業に3件採択

2 「再チャレンジのための学習支援システムの構築」

埼玉県西部地区再チャレンジのための学習支援システムの構築

埼玉県西部地区の子育て終了後の女性、定年退職後の方、障害のある方、子育て中の女性、「ニート」といわれる若者を対象に、埼玉県、入間市、狭山市など近隣の行政機関、商工会議所、地元企業等との連携のもと、今後は彩の国大学コンソーシアム加盟大学の協力を得ながら、交通の利便性に配慮し、保育サービス(託児)の提供可能な施設を利用し、地域の男女参画推進センター等との共催で、再チャレンジのための学習機会・情報提供の場を創出する。本学を会場として3講座。埼玉県西部地区4市を会場として、4市在住の女性を対象に4講座開設。
事業趣旨
本プログラムは、地域社会や企業等が求める人材の資質や能力を具体的に把握し、学習活動を経て就業や起業、社会参加等の新たなチャレンジをしようとする人に対する学習相談を行うとともに、チャレンジするために必要となる学習機会を、大学や専修学校等の協力を得つつ社会教育施設等において提供する等、学習者の再チャレンジに資する学習支援システムを構築するものであり、埼玉県西部地区再チャレンジ協議会が文科省の委託を受けて行う。事務局を本学地域協力推進センターにおくものである。
(関連記事 3面)
期間・平成19年度、平成21年度

大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)に2件採択

1 「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」

出身地域へのアウトリーチによる自立支援

本学では約四割の学生が首都圏以外の地方出身者であり、出身地域での就職希望者が多いことから、大学教職員・在学生保護者(後援会)・卒業生組織(緑窓会)が各地域へ出向き、「地区懇談会」を開催し、学習支援、進路支援、親子の相互理解支援を行ってきた。本プログラムは、この「地区懇談会」の対象を受験生(本人・保護者)、高校教員、地区の卒業生に広げ、入学前、卒業後支援を強化するとともに、地元の各界の有識者を招き、さらに組織的に在学学生・保護者への継続的な支援を行うものである。
期間・平成19年度、平成21年度

2 「専門職大学院等教育推進プログラム」

女性中核教員養成女子大学連合モデル(5女子大学連合)



シンポジウムで挨拶する片岡輝学長

現職の女性教員を対象に、5女子大学(大妻女子大学・実践女子大学・昭和女子大学・日本女子大学・本学)が教育委員会などの協働により、参加大学の施設をサテライト的に活用し、Learningを組み合わせたことにより、学校経営の中核を担う女性教員の養成に向けた研修プログラムを開発することを目的とするプログラム。



第1回採択記念シンポジウム
池坊保子文部科学副大臣による基調講演
日時: 2007年11月17日(土)13:30~16:30
場所: 日本女子大学百年館低層棟206教室

インターンシップ報告会
新しい可能性の発見 成長 未来へまなざし



農林水産省消費安全局・食育推進班での体験報告

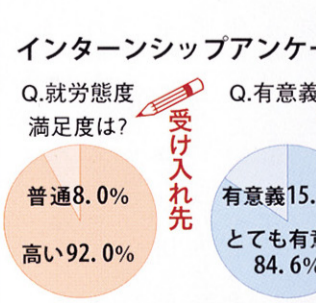
10月25日(木)インターンシップ(就業体験)報告会が開催された。学生と受け入れ先の満足度も高く、双方に意義あるインターンシップであったと理解される(下記グラフ参照)。

1週間から3週間の間、厚生労働省等の官公庁や、病院、ホテル、メーカー等の民間企業で、企画、広報、事務、工場生産等幅広く仕事をすることで、参加学生は社会と自分の可能性を見つめる貴重な体験をし、それぞれが10分間の報告にまとめ発表を行った。

就業体験先は、農林水産省、厚生労働省、埼玉県庁、板橋区立エコポリスセンター、最上町立病院、キュービー株式会社五霞工場、株式会社内田洋行、森観光トラスト株式会社、株式会社レオックサービス、橋本玲子ダイエットコンサルテーションズ等である。

例えば、農林水産省で体験した学生は、食育普及のための企画行政やPR活動に参画し、自分の実力の程度と不足している知識等を確認した。さらに、今後農林水産省の食育推進活動に学生として協力していく計画を立てている。キュービー五霞工場に参加した学生は、マヨネーズ、ドレッシング等の製造に携わりながら、同じ作業の中でも積極的に課題を見つけ改善していくことの重要性を学んできた。

インターンシップに参加したの学生にも成長と未来へのしっかりしたまなざしが感じられる報告会であった。学生たちの今後のさらなる発展が期待される。



例え、昨年の12月1日(土)には、大妻女子大学にて「女性教員のライフコース」今年に入り1月12日(土)には、昭和女子大学にて「女性教員の役割」をテーマにそれぞれシンポジウムが開催された。
期間・平成19年度、平成20年度

学生記者 企画第4弾

それ行け!家政く家政女たちが立ち上がる

本学の建学の精神は「女性の自主自律」。今年度の緑苑祭テーマは、この精神に基づき、学生たちにも積極的に参加してもらいたいという思いを込めての設

七頼もしい先輩

本学の卒業生である戸部江美さんは、1型糖尿病の患者の一人です。戸部さんは現在「朝日生命成人病研究所付属丸の内病院」(通称・丸の内病院)で栄養士をされています。

☆病気に気付いた時

糖尿病の発症に気付いたのは小学3年生の時。周囲に打ち明けられるようになったのはつい最近。血糖値(血中に含まれる糖の量)を下げるために、インスリン注射を自分で打たなければならぬ。時には仕事中に低血糖になることも。それでも、

できる、と気付いてからなのだそうです。

☆仕事での出会い

勤務する丸の内病院は糖尿病を専門とし、教育入院も行っています。食堂で患者さんに対し、糖尿病の治療食を例に理想的な食事について話したり、栄養相談

☆病気が得たもの

「自分が患者であるからこそ、人の辛さが分かる。そして、人に優しくできる。病気のせいで何かを失ったというよりも、むしろ得たものが多い。」

その1つが中学からの陸上と病気によって得た仲間達。それまでは運動音痴だったそうだが、ドクターから運動療法もするように

言われて母とジョギングを始め、走ることに夢中になりました。戸部さんは、大学時代にホノルルマラソン、社会人になって東京マラソンにも参加し、見事ゴールを果たしました。

皇居の外周を走るなどして少しずつ練習を重ねましたが、病気のため200mg/dl以上あった血糖値も、練習後には40mg/dl台まで低下。血糖値は通常、70

110mg/dl近くあるはずですから、これはかなりの低血糖。なぜ挑戦なさったのか尋ねると、「病気がかかってウジウジしていられない。とにかく、ゴールがしたかった!」この言葉からは、戸部さんの持つ、前向きで積極的な力強いパワーを感じました。

☆学生時代

そんなパワー溢れる戸部さんは、在学中はどのような学生だったのでしょうか。「友達からは『好奇心旺盛だった』と今でも言われま



右から菅野美緒さん、戸部江美さん、越野彩さん、共に本学管理栄養士専攻卒業生

☆丸の内病院との出会い

大学4年生の終わり頃、既に委託会社の内定が決まっていた戸部さんに、研究室の先生から、丸の内病院へ就職しないかとの声がかかりました。委託会社への就職を心に決めていた戸部さんですが、勤務内容が体に負担になることを家族や先生が心配していたと知り、

病の専門であり、糖尿病療法から晩まで学校に居ました。短大から編入したので、未履修の単位修得で、午前中は板橋校舎、午後は狭山校舎で授業を受けるため、西武線の中でおにぎりを食べることが思い出の一つです(笑)。

サークル活動は、当時大学院の研究から結成されたばかりのスポーツ栄養研究会に所属。バスケット部に食事面からのフォローを行い、他にはデータ収集やプレゼンなども行っていました。結成されて間もない頃で、前例のないことへの挑戦ばかりで大変でした。アルバイトではレジやキッチンを経験。「好きなバンドの追っかけもしていました(笑)」

授業にアルバイト、サークル活動と、糖尿病を感じさせないような忙しい毎日を送られていたようです。家政大生へは「自分のやりたいことにどんどん挑戦して欲しい」と、自らの経験を踏まえたメッセージを頂きました。

お会いするまでは、糖尿病のせいできっと大変な学生生活を過ごされたのだらうと想像していましたが、戸部さんからは糖尿病のことを負担に思う気持ちは微塵も感じられませんでした。自分がやる気になれば、どんなことも出来るのではないかと、かえって私の方が勇気付けられました。

今回のインタビューで、表面的なものではなく、痛みを知っているからこそその優しさで、周囲の人達へ元気を与え続けている頼もしい先輩の存在を知り、その頑張りを誇りに感じました。

♪理想のクラスメイト

みなさん、学園祭の「華」ミスコンをご覧になりましたか?今年、見事!ミス家政に選ばれた浅田慧子さん(短大2保育)を取材したところ、素敵な「ミス家政誕生ストリー」に巡り合いました。



浅田さんへのインタビュー

「自分と共々、貴重な友達や仲間が存在が浮かび上がり、本学ならではのミスコン情報をキャッチしました。」

大学の服を卒業してから短大の保育科に入学したクラスメイトに、卒業前にウエディングドレスを作りたいので、それを着てミスコンに参加してもらえないかとお願いしたところ、

「私達は食事をした後、膀胱(すいぞう)から分泌されたインスリンという物質が働くことにより、糖分(エネルギー)を体内に取り込んでいます。糖尿病とは、そのインスリンの作用が弱まることにより取り込めなくなると糖分が、血中に異常に増えてしまうことで体に様々な障害が生じる病気です。糖尿病という名前からは、通常、尿中には出ないはずの糖分が尿中にまで出てくることから付けられました。」

また、この病気は一度かかると完全に治すことはできないため、いかに体の状態を良好に保つかが重要です。

かと思われかけられました。人前に入ることは苦手なので初めは断っていました。が、他の友達からも応援されて、いつの間にか推薦状が提出されていました(笑)。

「ドレス製作のお友達について教えてください。」彼女が伏島麻乃(短大2保育)さん。本当に「何でもできる」人で、勉強だけでなく、難しい体育の実技テストも一発で合格しました。スキューバダイビングの資格を取って一人で沖繩の海に潜りにも行っていますし、好奇心旺盛、多趣味で、尊敬できる女性です。

「正直、私みたいにおちゃらけている子とは話が合わないのでは?」と不安を感じていましたが、



左:伏島さん 右:浅田さん

「他の型があり、日本人の糖尿病患者の多くは2型糖尿病です。1型糖尿病は生後突然、膵臓の中のインスリンを分泌する細胞が破壊されることによって起こります。ほとんどが成人以降に発症することが多い2型に比べ、1型は比較的若いうちの発症が多いとされています。」

2型糖尿病は生まれつき糖尿病になりやすい人に、肥満や、運動不足などの望ましくない生活習慣が原因になってインスリンが不足したり、インスリンの効果が少なくなったりすることで起こることが多い型です。

「写真撮ることが好きです。写真を使った絵本を作りたいと思っていて、ストリーに合うような写真を撮っています。」

「可愛いだけじゃない」これが、浅田さんと話している感じが伝わります。人懐っこい笑顔でインタビューに答えてくれました。可愛い友達がいってくれたから、当日もクラスのほとんどの友達が応援に来てくれて本当に心強かったです。

「ミスコンの自己アピールでは、どのようなことを話しましたか?」特別なことはアピールできませんでしたが、学生生活のことや友達のこと、趣味のことについてお話ししました。

「卒業後の進路は?」実は、他大学の写真科への編入を考えています。社会に入る前に、自分のやりたいことを思い切り頑張りたいと思います。他にやりたいことがあるような中途半端な気持ちで、就職をしたくはなかったからです。

「最後に、理想の女性や憧れの女性がいたら教えてください。」YUKIさんや、宮崎あおいさんが憧れます。2人とも自分というものを持っていて、特にYUKIさんは歌やファッションにおいて自己表現がとても上手いと思います。私はやりたいことがたくさんあって、彼女達のように自分というものをしっかりと持った女性になりたいと思います。

「インタビューを終えて」可愛いだけじゃない「これが、浅田さんと話している感じが伝わります。人懐っこい笑顔でインタビューに答えてくれました。可愛い友達がいってくれたから、当日もクラスのほとんどの友達が応援に来てくれて本当に心強かったです。」



グラプリを取った理由

「友達がいってくれたから、当日もクラスのほとんどの友達が応援に来てくれて本当に心強かったです。」

「ミスコンの自己アピールでは、どのようなことを話しましたか?」特別なことはアピールできませんでしたが、学生生活のことや友達のこと、趣味のことについてお話ししました。

「写真撮ることが好きです。写真を使った絵本を作りたいと思っていて、ストリーに合うような写真を撮っています。」

「卒業後の進路は?」実は、他大学の写真科への編入を考えています。社会に入る前に、自分のやりたいことを思い切り頑張りたいと思います。他にやりたいことがあるような中途半端な気持ちで、就職をしたくはなかったからです。

「最後に、理想の女性や憧れの女性がいたら教えてください。」YUKIさんや、宮崎あおいさんが憧れます。2人とも自分というものを持っていて、特にYUKIさんは歌やファッションにおいて自己表現がとても上手いと思います。私はやりたいことがたくさんあって、彼女達のように自分というものをしっかりと持った女性になりたいと思います。

「可愛いだけじゃない」これが、浅田さんと話している感じが伝わります。人懐っこい笑顔でインタビューに答えてくれました。可愛い友達がいってくれたから、当日もクラスのほとんどの友達が応援に来てくれて本当に心強かったです。」

「ミスコンの自己アピールでは、どのようなことを話しましたか?」特別なことはアピールできませんでしたが、学生生活のことや友達のこと、趣味のことについてお話ししました。

「写真撮ることが好きです。写真を使った絵本を作りたいと思っていて、ストリーに合うような写真を撮っています。」

「卒業後の進路は?」実は、他大学の写真科への編入を考えています。社会に入る前に、自分のやりたいことを思い切り頑張りたいと思います。他にやりたいことがあるような中途半端な気持ちで、就職をしたくはなかったからです。

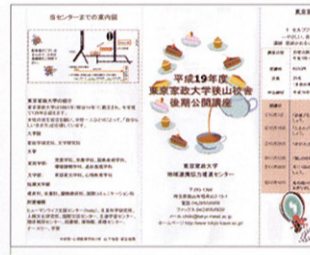
「最後に、理想の女性や憧れの女性がいたら教えてください。」YUKIさんや、宮崎あおいさんが憧れます。2人とも自分というものを持っていて、特にYUKIさんは歌やファッションにおいて自己表現がとても上手いと思います。私はやりたいことがたくさんあって、彼女達のように自分というものをしっかりと持った女性になりたいと思います。

大学のここが知りたい!!

24

—地域連携協力推進センター—

当センターでは地域に開かれた大学として主に学生のボランティア活動支援(狭山フレッシュユース支援・埼玉県スチューデントサポート)配置事業・埼玉県警察少年非行防止ボランティア等と公開講座を実施しています。



採用されたパンフレット

孫淑媚の合作
パンフレット採用
文学部心理教育学科3年
山下祐佳と根立絵美
パンフレット・ポスター
・チラシが採用され、近隣各市の社会教育施設等に配布、掲示されました。

☆後期公開講座のパンフレット・ポスター・チラシを学生に募集!(敬称省略)ポスター
文学部心理教育学科3年
井出あゆみ
家政学部児童学科3年
木村有里・三村あずみ・

☆夏休み子供公開講座作文募集(夏休みの楽しかったこと)
結果は次のとおりです。
埼玉県知事賞
入間市立東町小学校4年
植松 真帆
「ユースありがとう」
埼玉県教育長賞

入間市立新久小学校6年 篠崎 良彦
「家族旅行の思い出」
さいたま芸術文化祭実行委員会会長賞
入間市立藤沢北小学校6年 牛窪 真梨奈
「家族旅行」
東京家政大学学長賞
入間市立藤沢小学校5年 水口 真衣
「私の将来の夢」
奨励賞
入間市立金子小学校3年 小林 響
「オニガラキャンプに行つて」
奨励賞
所沢市立泉小学校5年 中野 みずき
「夏休みの思い出」
奨励賞
入間市立豊岡小学校6年 福岡 千絵
「今、一番好きな遊び」
各賞が決まり、各小学校の校長先生から賞状を渡して頂き、大いに喜ばれました。



夏休み子ども公開講座「ゲームの達人」

ための再チャレンジ学習支援講座
②生涯学習活動指導者養成講座
③企業ニーズに応える人材養成講座
④女性のための学び支援講座
場所は①②③本学狭山校舎。④は狭山・人間・所沢・飯能市で開催しています。期間はいずれも昨年11月から今年2月まで。
⑤2月19日(火)は「企業家や企業の人事担当者のフォーラム」を予定しています。
2の①⑤は、随時参加者を募集していますので、学生さん達には自分の空き時間を利用して興味のある科目を受講され、スキルアップして頂けたら幸いです。問合せ先…
地域連携協力推進センター
TEL 04-2955-6959
学生の方は当センターカウンターまで来てください!

☆文部科学省委託事業の講座開催
地域の方々に再び学んで頂き、その成果をボランティアや再就職に生かしてもらうための公開講座を開催しています。
1.「第一期児童英語地域支援者養成講座開催」
昨年10月から今年2月まで、5科目各15回、地域の方が受講され、それに、児童学科4年生・英語文学科の学生・他大学の学生が聴講・見学をしています。
2.「再チャレンジのための学習支援講座開催」
①子育て後の女性や若者の

「文献の探し方説明会」開催のお知らせ
図書館では、春休み(2月以降)の期間に「文献の探し方説明会」を開催します。
卒論学生・修論院生を対象に、図書館のPCを使って、データベースによる雑誌論文の検索方法や見たい雑誌の探し方を説明します。
紹介するデータベースはJDreamII、Cinii、大宅壮一文庫、医学中央雑誌、メディカルオンラインなどです。調べたいテーマにより対象が異なりますので、申し込みの際にどのようなテーマに沿って調べたいかご相談ください。
卒論学生・修論院生が対象となっていますが、「文献

春期休業中の長期貸出

所属	貸出日	貸出冊数	返却期限日
在学年 大学1-3年・短大1年	1/28(月)-4/2(水)	5冊	4/16(水)
大学院	1/28(月)-3/17(月)	10冊	
卒業学年 大学4年・短大2年	1/28(月)-3/17(月)	5冊	3/17(月)
大学院		10冊	

*2月中旬、蔵書点検予定(点検期間中は閉館となります)

「博物館」秋の特別企画展「影と色彩の魅惑ワヤン」好評のうちに終了
影絵芝居のワヤン・クリや木偶人形芝居のワヤン・ゴレなどインドネシアの様々な「ワヤン」を展示し、紹介しました。
会場を訪れた多くの来館者の皆さんは、ワヤン・クリの精緻な透かし彫りに驚かれました。ワヤン・ゴレの顔がひとつひとつ個性豊かなことに感心されていました。
会期中のイベント「ギャラリートーク」「ガムラン演奏」と「ワヤン・クリの実演」にも毎回多くの方が来館して下さいました。
ガムランの豊かな音色や、人形実際に動いている様子を皆さんじっくりと楽しまれていました。
多くの皆さんからご好評頂き、入館者数は過去最多となりました。今後の企画展もご期待下さい。



平成20年春の企画展は「わたしの服・ほくの服」と題し、明治から昭和にかけての子ども服をご紹介します。なつかしいお気に入りのお服に会いに、博物館へお越しください。
常設展示 現在4階の常設展示室を公開中です。こちら是非ご覧下さい。

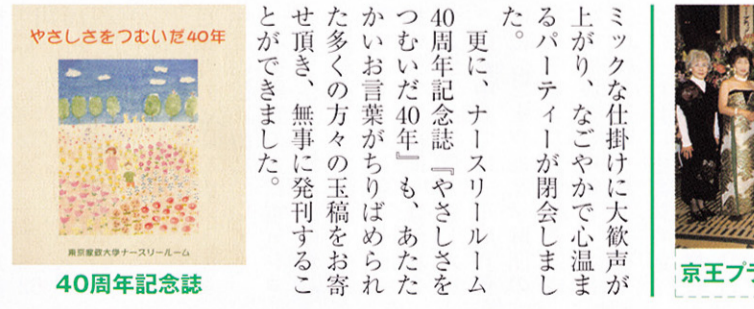
仙石 昨年9月から、管理人さんが交代しました。芳賀貴行・多江子ご夫妻です。
穏やかで温かい対応と、何といっても美味しいお料理が好評です。
箱根はいつ訪れても魅力一杯の場所です。昼食付の日帰り利用も出来ます。



11月15日 どんぐり見つけた!
本学卒業生の宮本先生引率のもと、木内鳩の家幼稚園の年中さん53名がどんぐり拾いに訪れました。珍しい形のどんぐりに歓声が上がっていました。

ナースリールーム 開設40周年を迎えました

昭和42年5月に開設されたナースリールームは40周年を迎えました。平成19年9月8日(土)には、ナースリールーム在園児・卒園児保護者有志の主催で「ナースリールーム40th Anniversary Party」が開かれ、卒園児、在園児とその保護者、旧現職員、学内関係者およそ130名が集まりました。
すべて手作りで行われたパーティーでは、「ハッピーバースデー・ナースリールーム」を合唱し、40年の歴史をスライドショーで振り返り、またカプラー(積み木)のワークショップでは子ども達だけでなく出席した大人達も全員参加で童心にかえって楽しみ、最後にはダイナ



40周年記念誌

生涯学習センター 受講生の活躍
「暮らしを彩るかな書道」講座の多々良保子さん・三川祐子さん、それぞれの作品が東方書道院展と読売書法展において初入選した。指導した大村敬子先生は「構図からリズム感と息つきが心地よく表現されており、ますます」と高く評価した。



「モデルとして舞台上」ユニバーサルファッション講座(若林閑先生指導)において制作した衣装で「Creating My Fashion」に出演(日本ファッションクリエイター協会主催)。大勢の観客の前に堂々と華やかに披露した。

京王プラザホテルにて開催



今年の緑苑祭は81団体が参加。初日は台風の接近により、テントが吹き飛ばすほどの嵐に見舞われましたが、そんなことには負けない、家政女達! 翌日にはパンフレットが足りない程の盛況で、見事な立ち上がりをお見せしたことでしよう。



本部企画のファッションショーも多目的ホールでの開催は5回目となります。年々趣向を凝らし、今年も新たな一面を見せてくれました。見逃したあなたに! ほんの少しだけ! 紙上ファッションショーをお楽しみ下さいませ。

「ART-VISIONS OF THE BODY」
By EVE



in 120周年記念館 1階 多目的ホール

白藤復活プロジェクト

白藤とは何ぞや?

新潟県に江戸時代末期から昭和初期にかけて、醸造米として栽培されていた「白藤」という「亀の尾」を凌ぐ花形品種がありました。この品種は、他の品種に比べて茎が長いため倒れやすく、機械による刈り取りが困難なため近代農業の機械化に対応できず、化学肥料農法にも適さないことなどから栽培されなくなっていました。



それが、ある日ある時、上原酒造(新潟市)の先々代名杜氏が「ふともらした」と、口さばけよく、風味豊かな昔の越後の酒を懐かしむ言葉を憶えていた上原誠一郎社長が、「本当の「新潟の酒」を造りたい」との思いから、4年前に茨城県つくば市の育苗センターに残

復活から発展へ

今後は、白藤を使い、江戸古式仕込みの日本酒「白藤郷」を、5月頃に都内などで販売する予定です。(4合瓶で約二千本)

新潟中越沖地震被災地復興支援の募金の報告

「白藤復活プロジェクト」に取り組んだ学生は、新潟での農作業に参加するだけでなく、キャンペーンにおいては、炎天下の中、中越地震の被災者のために募金活動に一役かかった。学生たちは5月の田植えの際に、初めて山古志地域を訪れた。水没した家屋や土砂崩れのダムなど、震災のつめ跡を目の当たりにし、「自分達に出来ること」を考えた。

総額212,830円募金を託す!

7月に中越沖地震が発生したのをきっかけに、学生有志20人が立ち上がり、猛暑の中、朝は正門前、昼休みは学生が多く通る図書館近くで募金活動を行った。9月19日には学生9人が山古志会館を訪ね、「被災者のために有効に使用してほしい」と、震災復興を支援する新潟市「山の暮らし再生機構」財団理事長に目録を手渡した。

奮闘

販売された白藤粥



本学においては、復活した米を分析し、3月末までにお粥や、酒かすを利用した化粧品など20品目の商品試作・開発も手がけました。管理栄養士を志す栄養学科3年の松本恭子さんは、「農作業を通して、机上の栄養計算だけでは分からない生産現場の気持ちを学べた。商品開発にも、大事に食べたい」という「親心」がこもり、「作り手の熱い思いを語り、今後の企画に更

第4回 TOKYO 北区ふるさと駅弁コンテスト

北区に恩返し! 北区駅弁コンテストにおいて303作品の中から、大3栄養・関友佳さんのお弁当が大賞に選ばれました。お料理や絵を描くことが好きな関さんは、自分にピッタリだと感じて応募。大学入学を機に上京、生活のほとんどを北区で過ごし、彼女の出身地である栃木と同じくらい緑が多くて自然がいっぱい、何より人々が温かい北区に、とても安心感を覚えたそうです。その北区に恩返ししたいという思いから、桜、王子の狐、名主の滝をイメージした「北区名所弁当」を考案しました。



3月発売「北区名所弁当」

「このお弁当を通して、北区の良さを再発見してもらえた嬉しい、本当によい経験になった。」と喜ぶ関さん。春にはこのお弁当を片手に、北区名所巡りはいかがでしょうか?

高校生・大学生・学生が運営する「茶の間」が各々運営ある賞に輝いた!

第3回東京商店街グランプリ「茶の間」が準グランプリを受賞。インターハート心と心をつなぐ接客、本学の学生が運営、茶の間「居心地の良い地域の居間をめざす、を店名に掲げる「茶の間」の活動が、第3回東京商店街グランプリにて、数ある商店街の中から、地域活性化部門の準グランプリの栄冠に輝きました。通常の営業を基盤にのせ、今年度は特定の学生が企画するコンセプトカフェやキッズメニューの開発、ハッピーデザイナーのイベントを実施したり、商店街の他店との共同によるヘルシーメニューの開発やエコバックの製作など、新しい学生スタッフを増員しながら、様々なことにチャレンジ。講評では、商店街の活性化だけでなく、学生の実学教育の機会として大学が実施する新しい教育のモデルケースと評価されました。パーティーやケータリングにも対応、是非一度お店に足をお運び下さい。



平成19年度 優秀賞受賞

平成19年度東京都選秀ポスターコンクールにおいて、約16,000作品の中から附属高校1年生の林知香さんの作品が東京都審査会において、優秀賞に選ばれました。表彰式は平成19年11月7日(水)東京都庁において行われました。

幼稚園 11月7日

みどりヶ丘幼稚園在園児全員に教職員(本学教育実習生3名含む)が付添い、小石川植物園に遠足に行きました。植物園は坂道が多く、年長さんが年少さんと手をつなぎ、年長さんは年下の子の面倒をみることを、年少さんはお兄さんお姉さんに親



♪あかいあかい はっぱっぱ♪ きいろいきいろい はっぱっぱ♪



秋山名誉教授に海外の大学から「榮譽証書」授与

平成19年9年に四国大学化学工程学院から秋山名誉教授及び本学に対し、長年の功績を顕彰して、「榮譽証書」が贈られました。先生は、四国大学大学院にて18年間客員教授をお勤めになつています。



厚生労働大臣表彰 宇高教授に

9月19日、栄養士の養成に貢献した功績に対し、「平成19年度全国栄養改善大会」において厚生労働大臣表彰を受けました。



自動体外式除細動器・附属